

新潟市教育委員会 平成27年7月 定例会会議録				
日 時	平成27年7月29日(水) 午後2時30分			
場 所	市役所白山浦庁舎7号棟 405会議室			
教育長	前 田 秀 子			
出席委員 (7名)	吉 村 委 員		出席委員	眞 谷 委 員
	齋 藤 委 員			佐 藤 委 員
	織 田 委 員			
	伊 藤 委 員		欠席委員	沢 野 委 員
	藤 田 委 員			
会議に出席 した職員 (21名)	職・氏 名		職・氏 名	
	教 育 次 長	高 島 徹	生 涯 学 習 セ ン タ ー 所 長	三 保 恵 美 子
	教 育 次 長	長 浜 裕 子	生 涯 学 習 セ ン タ ー 次 長	井 関 一 博
	教 育 政 策 監	伊 藤 充	中 央 公 民 館 長	五 十 嵐 政 人
	教 育 総 務 課 長	上 所 隆	中 央 図 書 館 長	山 川 正 士
	学 務 課 長	川 崎 健	中 央 図 書 館 サ ー ビ ス 課 長	松 田 玲 子
	施 設 課 長	小 林 正 人	新 津 図 書 館 長	松 原 伸 直
	保 健 給 食 課 長	松 崎 義 春	教 育 総 務 課 課 長 補 佐	五 十 嵐 雅 樹
	地 域 教 育 推 進 課 長	佐 々 木 克 己	教 育 総 務 課 係 長	灰 野 梢
	教 職 員 課 長	吉 田 隆	教 育 総 務 課 主 査	石 田 貴 宏
	総 合 教 育 セ ン タ ー 所 長	高 地 啓 衛	教 育 総 務 課 主 査	小 林 夏 那 恵
	学 校 支 援 課 長	大 井 隆		
その他の 出席者	なし			

開会	時 刻	午後 2 時 3 0 分
	宣 言 者	教育長
付議事件 (4 件)	議案番号	件 名
	議案第 8 号	市立小学校長の人事について
	議案第 9 号	平成 28 年度使用新潟市立小学校用教科用図書の採択について
	議案第 10 号	平成 28 年度使用新潟市立中学校用教科用図書並びに新潟市立特別支援学校・学級用一般図書の採択について
	議案第 11 号	平成 28 年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書の採択について
協議会 (1 件)	件 名	
	教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価について	

第1 開会宣言

○教育長 午後2時30分開会を宣言する。

本日、沢野委員から本日の会議を欠席するとの連絡が入っておりますが、会議の定足数である過半数を満たしております。

本日、報道はありません。なお、会議中に報道関係者より委員会を撮影及び録音したい旨の申し出がありましたら、これを許可することにご異議はありませんでしょうか。

よろしければ、許可することで決定します。

第2 会議録署名委員の指名

○教育長 新潟市教育委員会会議規則第11条により、会議録署名委員に織田委員及び伊藤委員を指名します。

第3 付議事件

○教育長 これより付議に入ります。議案第8号「市立小学校長の人事について」は人事案件でございますので、非公開としたいと思っておりますが、ご意義ございませんでしょうか。

では、協議会終了後、非公開案件として再開して審議いたします。

それでは議案第9号「平成28年度使用新潟市立小学校用教科用図書の採択について」学校支援課から説明をお願いします。

○学校支援課長 小学校用教科用図書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の第14条に基づいて、平成27年度に使用している物と同一の教科書を引き続き使用することとなっております。これを踏まえて、掲載されている教科用図書を平成28年度使用新潟市立小学校用教科用図書として採択することのご審議をお願いいたします。

○教育長 今ほど説明がありましたように、平成28年度使用新潟市立小学校用教科用図書については、平成27年度に使用している物と同一の教科書を引き続き使用することとなっております。そのことについて、何かご質問等ございますでしょうか。

それでは、議案第9号について承認してよろしいでしょうか。

では、承認することといたします。

次に、議案第10号「平成28年度使用新潟市立中学校用教科用図書並びに新潟市立特別支援学校・学級用一般図書の採択について」及び議案第11号「平成28年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書の採択について」は関連がございますので、一括して審議いたします。学校支援課から説明をお願いいたします。

○学校支援課長 それでは、議案第10号「平成28年度使用新潟市立中学校用教科用図書並びに新潟市立特別支援学校・学級用一般図書の採択について」議案第11号「平成28年度使用新潟市立高志中等教育学校前期課程用教科用図書の採択について」続けてご説明いたします。

中学校，特別支援学校・学級用一般図書，高志中等教育学校前期課程の平成28年度使用教科用図書については，5月の教育委員会の諮問を受けて専門調査員の調査研究を基にした教科用図書選定委員会で審議し，答申されました。

平成28年度使用教科用図書に関する資料について（答申）をご覧ください。記の1から5の観点に基づき，慎重に審議した結果，付議6ページから付議141ページまでに記載してある教科用図書並びに一般図書が答申されました。

次に，中学校及び高志中等教育学校前期課程で使用する教科用図書について，2点補足説明いたします。1点目は，平成24年度から全面実施になっている学習指導要領に基づき，すべての教科用図書が文部科学大臣の検定を経ております。2点目は，今回の採択教科用図書は平成28年度の教育課程から原則として4年間継続して使用いたします。

次に，答申までの経緯についてお話しします。このたび，諮問の観点により選定委員会に答申しましたら，その際，専門調査員の調査研究報告書を中心に審議していただきました。また，県の教科用図書研究資料を参酌し，併せて市内中学校から寄せられた研究報告，新潟教科書センターの閲覧者から寄せられた意見等も参考にさせていただきました。

次に，今回の教科書採択にかかわる専門調査員の研究経過について簡単にご説明いたします。

平成27年5月25日に第1回打合せ会を開催し，その場で教科用図書採択の基本方針，諮問内容等を確認いたしました。その後，教科ごとに複数回，調査研究の会を開催し，報告書としてまとめました。なお，中学校部会の研究の観点は，2の（2）のアからカに示したとおりです。

以上が各教科の説明に入る前までの報告でございます。一旦ここまでについて，ご審議をよろしくお願いいたします。

○教育長

今，説明がありましたように，今回採択する教科書はすべての教科用図書が文部科学大臣の検定を受けていること，今回の採択は現行の学習指導要領に基づいて行うこと，平成28年度からの教育課程による4年間の使用であることということです。この視点を踏まえ，現在の新潟市の教育課題と子どもたちの実態を基に，より適した教科書を採択することとなります。選定委員会からは，専門的な見地から慎重に協議検討した結果として答申をいただいたところですが，ここまでについて，何かご意見はございますでしょうか。

ないようでしたら，これから教科ごとに答申された内容を基に採択していきたいと思っております。

それでは，教科ごとの説明をお願いします。

- 学校支援課長 教育委員の皆様には、これまで全教科、すべての教科書及び答申された専門調査員研究報告書について目を通し、内容を把握していただいております。本日は時間も限られておりますので、第2回選定委員会で新潟市の子どもたちに適しているとして推薦された物についてご説明させていただきます。説明の後、すべての教科書を対象としてご審議いただき、採択をお願いいたします。
- これから教科ごとに発行者番号順に説明いたします。また、発行者名については略称を用います。
- 国語です。付議10ページまたは専門調査員研究報告書答申の中学校国語のページをお開きください。新潟市の生徒に適する物として、2東京書籍、15三省堂、38光村図書の3種が推薦されました。
- 東京書籍は個々の教材において身につけたい力と学習の流れが明確に定められています。また、単元を貫く言語活動も設定されています。
- 三省堂は身に付けたい力がマトリックスで見やすく整理されています。また、学習者が学習の見通しを持てるように工夫されています。
- 光村図書はつけたい力が明確で、そのための適切な教材が配置されています。また、単元を貫く言語活動が工夫できるように、「読むこと」が連続する教材に工夫が見られます。
- 以上が国語についてです。ご審議をお願いいたします。
- 教育長 それでは、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。
- 齋藤委員 光村について。題材ごとに目標という形で設定が明確になっているというのが特徴です。この題材が終わったところでも、学習、目標ということで、もう一度題材についてどの程度学習内容の把握ができたか、確認ができたかということが非常に分かりやすくなっている部分を評価したいと思っています。
- 眞谷委員 三省堂の教科書に、参考資料が非常に豊富についていまして、特に、原稿用紙の使い方はこの教科書が一番詳細に説明されているように思います。
- 今、いろいろなところで小論文というものが、大学入試でも小論文だけというところも出てきていますので、中学校の段階でそういうことをきちんと指導していただく資料としては、三省堂も捨てがたいのではないかと感じました。
- 吉村委員 各社とも本当に素晴らしいのですが、光村では学習する項目が生徒に対して確認しよう、あるいはイメージをさらに深めようということで非常に焦点化した出し方をされています。これは中学生にとって大事な、インパクトがあっているのではないかと感じました。
- 伊藤委員 私も光村の教科書を読みまして、文字も大変見やすく、そしてつけたい力がはっきりしているというのが、学びやすい教科書なの

ではないかと思いました。

○教育長

委員の皆様からは、光村図書がいいのではないかというご意見が多いようですけれども、いかがでしょうか。国語については光村図書を採択するというところでよろしいでしょうか。

異議なしということですので、国語につきましては38の光村図書を採択いたします。

続いて、書写をお願いします。

○学校支援課長

次に、書写です。新潟市の生徒に適する物として、2東京書籍、11学校図書、38光村図書の3種が答申されました。

東京書籍は、毛筆は2年までで3年は生活における具体的な書写場面を設定し、目的意識を醸成したうえで書かせるように工夫されています。

学校図書は全単元が毛筆書写→解説→硬筆練習という毛硬関連指導の流れで書かれていて、理解しやすくなっています。また、3年では生活に生かす視点で単元が組まれています。

光村図書は、最初の単元は小学校と中学校の接続を意識した教材となっています。筆脈を重視し丁寧を示してあります。また、全単元において学習者に考えさせる課題が設定されています。

以上が書写についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、書写についてご質問、ご意見等ございませんでしょうか。

○藤田委員

私は東京書籍の課題を確認する目標マークやキャラクターの「調べよう、確かめよう、広げよう」と誘導してくれるところや、文字の練習として「書いて味わおう」で有名な著書の一節を書写するというところを評価したいと思います。

○伊藤委員

私は学校図書のものが、実物大であるところが毛筆の勉強にいいなと思いました。紙の大きさも同じであるので、書写の練習のときに大きさを見ながら文字を書くということで、使いやすいのではないかと思います。

文字もきれいですので、きれいな物を手本として書くということで、いい文字が生まれるのではないかと思います。

○織田委員

同じく学校図書なのですが、字形を整えて書くポイントが非常に分かりやすく書いてあります。文字を書くのが苦手な生徒にも、少しでも美しい文字を書こうという意識につながると思ひまして、このポイントの表し方は非常に分かりやすいと思ひました。

○佐藤委員

私も伊藤委員と同じ理由で学校図書です。実物大の見本が入っているのです。ほかのところは縮小版となっていますが、やはり毛筆等を練習するときには実物大というのは、生徒、学ぶ側にとっては非常にいいのではないかと考えております。

○教育長

学校図書がいいのではないかという意見が多いようですけれど

も、書写につきましては学校図書を採用するというところでよろしいでしょうか。

それでは、書写につきましては学校図書を採用します。

次に、社会の地理的分野についてお願いします。

○学校支援課長

社会の地理的分野です。社会の地理的分野につきましては、2 東京書籍、17 教育出版、46 帝国書院の3種が答申されました。

東京書籍は、見開きの右側の最下段に共通して学習課題に対して学習を深めるための確認が配置されています。また、各地の文化や課題の理解が深められるようになっています。

教育出版は学習課題の記述が本時の学習内容を網羅しております。また、課題に即して「ふりかえる」のコーナーでは確認の問題が用意されています。

帝国書院は気候区分図の塗り分けと、各気候区の雨温図のタイトルバックが同じ配色なので、場所と雨温図の両方を関連づけて理解しやすくなっています。

以上が社会の地理的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○齋藤委員

地理については各教科書を確認しましたがけれども、各教科書とも、今、ニュース等で取り上げられている竹島、北方、尖閣の領土の問題がしっかり取り上げられているということは非常にいいことだと思います。

比べてみると、全体的にそうなのですが、私は東京書籍の図柄と文字のバランスのよさや、ぱっと視覚的に目に入って来やすい印象を、全体のレイアウトを含めて感じました。

○眞谷委員

小学校の教科書選定のおきもそうだったのですが、新潟県をどう扱っているのかを一番興味を持って見ていました。新潟県は何地方なのかがよく分からないという面があるものですから、それをどのように、地区わけの説明がどうされているかということそれぞれ見てみました。

東京書籍の138ページに、都道府県を基に区分すると書いてあって、全国それぞれどう分けるのかをはっきりとまとめた説明があります。その中で、中部地方は北陸、中央高地、東海の三つに分けるという形ではっきりと記載されているのです。その上に図があって、新潟も北陸の中にここでは区別されているのだという説明がはっきりなされています。

ほかの教科書はあまり、全国の区分の中の一つに新潟を含めた区分わけの説明がなされていなくて、あちこちに散らばっているようなところがけっこうあったのですが、東京書籍ははっきりとそこに明確に新潟県の位置づけを示してくれていますので、新潟で使う教

科書としてはふさわしいのではないかと感じました。

○齋藤委員

先ほど言い忘れたのですが、今の眞谷委員の発言に関連して、東京書籍は139ページの右下に、「地理にアクセス」というコーナーがあるのです。これは新潟県ではないですけれども、長野県が属するのはどこという内容のもので、今、眞谷委員が言われたように、一元的ではなくて、全体の中の存在というか、そういうものの意識を感じ取れる、非常にいい企画だと感じています。

○眞谷委員

私も見ていたのだけれども、新潟県を見つけたらほっとしたもので、こちらは気づきませんでした。

○齋藤委員

気象庁の予報では関東甲信越になっているとか。特に、新潟県の場合は中部地方なのだけれども、ニュースなどでは関東甲信越として扱っているし、あるいは北陸とと思っている人もいるかもしれない。ガスは北陸、電気は東北というものにとらえ方というか、こういう視点も分かりやすいなど、親切だなと思います。

○伊藤委員

どの教科書もとても特徴があり、私自身、大変悩むところでした。例えば、帝国書院では写真がとても効果的に使われており、68ページに世界の人々の表情がリアルに表現されていて、居ながらにしていろいろな世界の人々に出会ったような気がするほど、写真が効果的だという印象を持ちました。

教育出版では伝統産業など、それぞれの教科書で、ポイントとして学ぶのに大変分かりやすく、また、特徴的にとらえて作っているということが学習会の中でよく理解できました。

東京書籍では、政令市新潟の農業の位置づけや、農業を重点として新潟市はやっつこうということですが、弥彦など、写真も効果的に、また新潟について学ぶのに分かりやすく詳しく載っているという印象でしたので、その辺、私自身は悩んでいるところです。

○織田委員

去年も小学校の教科書の採択のときに、教科書を全部勉強させていただきました。今回も各社のいろいろな教科書を見せていただいて、とても勉強になりました。どの会社も工夫していらっしゃるのです。

最初に齋藤委員がおっしゃったように、今、話題になっている領土の問題について、子どもたちにどのように学ばせるのかを、非常に興味深く拝見しました。私自身、勉強不足であやふやだった点がとてもよく理解できました。どの教科書も扱いが非常に丁寧で素晴らしいと思います。

もう1点、私がポイントにしたのは、各単元の学習のまとめ方なのです。答申であがった3種については、とりわけ「まとめ」がわかりやすいと感じました。子どもたちは復習しながら学習のまとめがしやすいと思いました。

中でも教育出版の「学習のまとめと表現」という扱いが非常にコ

コンパクトで良いと思います。このくらいのページ数で、まとめ方がコンパクトであれば学習した内容がきちんと定着するのではないかと感じました。

○藤田委員

私も齋藤委員が言われたように、東京書籍のレイアウトがとても見やすいので東京書籍が良いと思います。

○教育長

各社ともという中ですがけれども、東京書籍が良いのではないかと
いう意見が多いようです。地理的分野については東京書籍を採択する
ということによろしいでしょうか。

それでは、社会の地理的分野については東京書籍をお願いいたし
ます。

続いて、社会の歴史的分野をお願いします。

○学校支援課長

社会の歴史的分野につきましては、2 東京書籍、17 教育出版、46
帝国書院の3種が推薦されました。

東京書籍はすべての小単元に共通して「どのようにして～なの
か」、「どのような～なのか」といった文型で学習課題を載せていま
す。「歴史にアクセス」で追求意欲を高める工夫がされています。

教育出版は小単元の副題に課題が明記され、小單元ごとに「ふり
かえる」の項目でまとめがあります。ステップ1、ステップ2と難
易度が工夫されています。

帝国書院は、学習したことについて「歴史を探ろう」という発展
的な課題に取り組む内容が挙げられています。「タイムトラベル」で
大きな絵が使われ、イメージがつかみやすくなっています。

以上が社会の歴史的分野についてです。ご審議をお願いいたしま
す。

○教育長

では、ご意見、ご質問をお願いします。

○佐藤委員

答申で推薦された3種のほかにもいろいろ教科書を見せていた
きました。そういう中で、推薦された3種はうまく作り込まれてい
ると思います。それぞれの課題を明確にして、生徒たちが勉強しよ
うという学習意欲を造成させるような作り込みがこの3種は素晴ら
しいと思います。

そういう意味で、三つとも甲乙つけがたいと思っていたのですけ
れども、いろいろ見ていくと、先ほども話題になっていましたが、
北方領土に関するところをあらためて見てみると、東京書籍の242
ページですが、竹島、北方領土、尖閣諸島とうまく分けて説明され
ていて、生徒からすると非常に分かりやすいのではないかとと思い
ました。そういう観点から全体的に見たのですけれども、生徒たちが
勉強する中で入り込みやすいようなデザイン、作り込みになってい
ると思いますので、東京書籍が良いのではないかと考えています。

○伊藤委員

私も悩んでいるのですけれども、どれも特徴的でいいところがた
くさんありました。

例えば、日文では人権について、大切な部分、丁寧に扱っているところがいいと思いました。学習課題として確認や活動ということで、学習しやすい流れで作られている教科書の一つだと思います。

教育出版では目を引くタイトルが、学ぶときに子どもたちが集中しやすい紙面作りというのは大事だと思うのですが、その辺も効果的ですし、問いかける仕組みというところがいいなと思いました。

それでもやはり東京書籍で感心したのは、年表が物差しのように表現されていて、今学んでいるところが時代の中のどの部分なのかも一目瞭然に表されているところとか、「歴史にアクセス」という、タイトルで、学ぶポイントが見やすいように教科書が作られているように思ったので、東京書籍の教科書が使いやすいのではないかと思います。

○藤田委員

私も東京書籍がいいと思いました。ページ数が一番多くて、先ほども言いましたが、東京書籍はとてもレイアウトが上手で、余白の使い方がとても見やすく、キャラクターの表情が穏やかなので、難しい顔をされていると難しく感じるのですが、キャラクターの誘導してくれる表情も非常にいいと思います。最後に用語の説明があって、それも非常にいいと思いました。

○教育長

3人の委員から東京書籍がいいのではないかという意見がございましたが、歴史的分野については東京書籍でよろしいでしょうか。

それでは、社会の歴史的分野については東京書籍を採択いたします。

続いて、社会の公民的分野になります。

○学校支援課長

社会の公民的分野です。社会の公民的分野につきましては、2東京書籍、17教育出版、46帝国書院の3種が推薦されました。

東京書籍は学習課題設定のための資料として具体的な事例が提示されており、学習内容に対する興味、関心を高めています。「公民にチャレンジ」など、特設コーナーがあります。

教育出版は「言葉で伝え合おう」、「読んで深く考えよう」という特設ページがあり、多様な言語活動が設定されています。「ふりかえる」で学習内容を活かして考えさせ、記述させることができます。

帝国書院は「クローズアップ」で学習課題にかかわる具体的な事例が紹介され、生徒の興味・関心を高めています。章末には「トライアル公民」が設けられています。

以上が社会の公民的分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

では、ご意見、ご質問をお願いいたします。

○眞谷委員

推奨された3種を中心に見せていただいたのですが、それこそ先ほど齋藤委員がおっしゃった、現在、日本国の中で一番注目されて

いる領土問題とか拉致問題とかそういうものは、ほぼ甲乙つけがたい内容で記載されておりました。ただ、索引を見たら、東京書籍の索引だけ「拉致」という言葉がなかったのです。ほかの2社にはありました。索引だけの問題なのですけれども、どうなのかなと、少し気になっているのが一つあります。

それから教育出版に、「言葉で伝え合おう」という特別コーナーが何箇所か出てきていまして、ディベートやプレゼンテーションや裁判員裁判とか、これから子どもたちが世の中に出て行くに当たって、必ず必要になってくるであろうと思われるものが順次出てきて、それを実際に体験できるような形で取り上げられているという点が非常に興味深くて、今の子どもたちにとっては非常にふさわしい教科書ではないかと思います。そういう意味で、教育出版を私は推薦したいと思います。

○齋藤委員

推薦された3種を中心に見たのですけれども、私は以前、マスコミに勤務していたのですが、東京書籍は実際の新聞記事が教科書に載っています。なおかつ「公民にチャレンジ」という、先ほど説明がありましたが、そのコーナーには「これがメッセージなのか」とか、「原発活用は現実的な戦略だ」とか、要するに新聞各社、同じマスコミでもとらえ方や論評の仕方が、今起きている事象に対して違うのだということを示していて、個人的に非常に興味を持ちました。逆に現場でこれはどうやって授業の中で説明していくのかな、とも思いましたが。「公民にチャレンジ」は、なかなかいい企画だと私は感じました。

○伊藤委員

私はこの三つの間でかなりぐらぐら揺れているのですが、例えば、帝国書院では領土について大きく取り上げられています。学習課題「まとめ」ということで明示されていて、見やすい教科書になっています。それから東京書籍では拉致問題について大きく出ております。しかしながら、ほかの教科書で比較していたところ、新潟市では拉致問題については副読本もあり、学習のときにそれも使えるのでというご説明もあったため、それについては比較してもどうかというか、副読本がサポートする形でできるということが分かりました。

教育出版については写真がとても見やすく、資料もまんべんなく配置されているという印象で、学習で使うときに内容も大変使いやすい作りであればいいのですが、資料が見やすいというところも大変使いやすいのではないかと、生徒にとっても教える側にとってもいいのではないかと思いましたので、教育出版がいいのではないかと感じております。

○吉村委員

皆さんから話が出たように、各社とも本当に頑張っておられて、これでどれを取るかといわれても非常に厳しいのが本当のところ

で、とてもいい学習図書だと思っています。

例えばなのですが、私どもの中では政治に関して各社、特に政治の学習を扱うということが、人権を取り上げたり、強制とかそういうものを扱ったりで多少差があるような気がします。その中で、教育出版は平和主義について重きを置いていると私はとらえました。

今、戦後日本を考えたときに、もう一度日本のこれまでの維持、これからも維持する平和主義を常に意識した国民であってほしいということを考えて、政治部門でも平和主義に重点を置いている教育出版に、私は強く興味を持ちました。個人的な感想になって恐縮ですが。

○教育長

教育出版がいいのではないかという意見が多数出ておりますけれども、いかがでしょうか。教育出版を採択するということによろしいでしょうか。

それでは、社会の公民的分野につきましては教育出版を採択します。

続いて、地図についてお願いいたします。

○学校支援課長

地図は2 東京書籍と 46 帝国書院の2種が推薦されました。

東京書籍は、主題図の中に生徒が問いかける吹き出しの形で学習課題が設定されています。主題図の随所に「ジャンプ」のマークがあり、学習課題に関連する資料が明確になっています。

帝国書院は、地図や主題図の中に「地図をみる目」というタイトルで学習課題が設定され、読図の指標となっています。主題図の内容資料が豊富で、発展的課題に対応できるものとなっています。

以上が地図についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、委員の皆様、ご意見、ご質問をお願いします。

○伊藤委員

私は個人的に、どの出版社のものも、新しいものについてはいろいろな切り口について書店で見比べて、自分でも活用しているのですが、帝国書院と東京書籍の地図についてよく見てみました。

私の観点は、新潟がどのように取り上げられているかというところで、そこを比較して見てみました。

帝国書院のほうは、地図が大きく、新潟県全体が分かりやすく、そして近隣の県との位置がよく把握しやすいような地図で表されておりました。そして、113 ページでしたか、中部地方の資料図が大変興味深くて、1900 年代の姿と 2000 年代の地図を比較して、新潟の農業について表されています。その下にも全国との専業農家の比率がどうであるか、新潟の農業について詳しく、ほんの小さい場所なのですが、中身が非常に豊富に織り込まれていて、学習の手引きになるのではないかという印象でした。

東京書籍の地図については、地図の上に産物が図で書いてありますので、それぞれの地域の産物が、例えば、長野でしたらりんごと

か、一目見て興味を持つような作りになっていると思いました。

あと、地図の作りとしては、私もよく地図を活用するのですが、帝国書院のほうがどちらかというと厚みは薄い作りではありますが、表紙が耐水性もあって非常に手になじむ作りになっていて地図らしい地図なのですけれども、中身とのバランスもよく、見開くと使いやすいという点で、私は帝国書院の地図を学習で使っていたきたいと思います。

○織田委員

地図はどちらもとてもよくできていると思います。とても素晴らしいのですが、東京書籍の作っている地図はとても見やすいというか、手になじむというか、紙が特別なものを使っていらっしゃるようで、きらきら光らなくてとても目に優しいと感じました。

ただ、資料の扱いについて、先ほど伊藤委員も言っておられましたが、資料をどのように地図の間にはめ込むか、というところが帝国書院の地図が良いと思いました。地図の場所をきちんと把握すること、それからその地域でどういうことが行われているか、どういう地域の特性があるかを資料と併せて見るのに非常に見やすいことが、ポイントでした。さらに「やってみよう」という課題も魅力です。子どもたちが学習の中で自ら「眺めてみよう、やってみよう」という主体的な活動につながる作り方をしている、非常に私は興味を持ちました。それで、帝国書院の方が良いと思いました。

○齋藤委員

私も地図は大好きなのですが、東京書籍と帝国書院で、ぱっと見た印象が違いますよね。これは好みの問題もあるのですが、地図を見たときにこちらが見やすいという人と、もう一方のほうが見やすい人がいるように。

帝国書院の世界地図のところに、同緯度、同尺の日本が入っています。北海道はスペインの辺りにあるのかとか、こんなに広さに差があるのかと改めて気づきます。こうやって見ていると、なるほどと思う部分があって、前からこういう企画があったのでしょうか。非常にユニークだと個人的に感じます。南半球には同尺度の反対側ということで、日本の北半球、南半球の位置関係と面積の広さの関係もよく分かると思います。

○教育長

それでは、帝国書院という皆様のご意見ですので、帝国書院を採択するというところでよろしいでしょうか。

それでは、地図については帝国書院を採択することにします。

続いて、数学をお願いします。

○学校支援課長

数学につきましては、2 東京書籍、61 啓林館、116 日本文教出版の3種が推薦されました。

東京書籍は「調べてみよう」や「考えてみよう」で学習課題が示され、1時間を見通し問題解決型授業を意識しています。また、「活用の問題」が適宜取り入れられています。

啓林館は「自分の考えをまとめよう」や「みんなで話しあってみよう」など、アクティブ・ラーニングを意識しています。「見方や考え方」の記述など、数学的な見方や考え方を重視しています。

日本文教出版は主体的・発見的な学習の場を多く設け、自ら考えたり考えたことを説明し合ったりする学習に取り組めるようにしています。

以上が数学についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○眞谷委員

今、候補に挙げた3冊を中心に読み比べてみたのですが、うちの子どもはみんな数学が苦手だったので、どこでつまづくかという1年生のときの比例反比例の当たりでつまづいていたものですから、その部分を3冊見比べて、自分が説明を受けたとしたら、どの会社のものが一番分かりやすいかなと思ってみたのですが、東京書籍がその辺りの説明が非常に分かりやすかったと思います。

全体を見ても、比較的数学が苦手な子どもには分かりやすいように説明がなされているのではないかと感じました。これはあくまでも苦手な人間の感じ方なのですが、東京書籍がいいのではないかと私は感じています。

○佐藤委員

いろいろ考え方があるとは思うのですが、小学校から中学校になって算数から数学ということで、数学は、今、眞谷委員から苦手という話がありましたけれども、個人差がつきやすい学科ではないかと思っています。

その中で、啓林館は「千思万考」という少し難易度の高いコーナーを設けたりしています。学習の度合いが進んでいる子どもに対しての配慮がされておりますので、数学という部分では段階的な配慮をされている啓林館がいいのではないかと私は思います。

○吉村委員

同じようなことなのですが、眞谷委員のお子さんは数学が苦手という話で、私の子どもは全部苦手だったので、私が学校に勤めていたときのことで、数学は、特に小学校高学年から中学校くらいで苦手意識を持つと、迷路に入ったようになってしまって何をやっていいか分からないという印象が強くあるのです。

すべての教科がそうなのですが、一人一人のサポートのしかた、対応が非常に大事。早期に対応することが非常に大事だと思います。

その観点から見ていくと、啓林館の先ほどの「千思万考」もそうですけれども、特に別冊での、個に対応した準備が非常にいいと思います。ここでつまづきかけた子どもが、また復活するチャンスもあるのだなと思ったので、私も啓林館がいいのではないかと考えています。

○織田委員

私も自分自身が数学から落ちこぼれた人間ですので、いろいろな教科書を読んでみて、自分はどれだったら勉強する気になるかなと

思いながら見ました。そうしたら、この推薦されてきた3種は、さすが先生方は子どもたちのことをよく見てくださっているなと感心しました。この3種はどれも導入の部分がとてもよく工夫されているのです。数学の難しい所、例えば、私は方程式で落ちこぼれたので、方程式の導入をどのように導いているかなと興味を持って見ました。するとまず生活に密着した場面設定があり「こういう場面で、方程式を使えるから勉強しておいたほうがいいのだよ」というように導入されていました。とてもよくできていると思いました。

先ほどから話が出ていましたが、中でもこの啓林館の別冊は本当によくできていて、いろいろな観点から数学の世界を広げてくれるので、そういう意味で啓林館により強く興味を持ちました。

○伊藤委員

やはり三つでぐらぐらしています。みんなそれぞれいいところがあります。

日本文教出版の「見つめよう、説明しよう」とか、数学は粛々とやるもののようなのですが、考えを人と伝え合って学ぶというのが、現代の子どもたちは恵まれているなと思います。互いに刺激し合って苦手教科も互いに苦手だとわかり合いながら、励まし合いながら分かる喜びというか、数学を好きになってもらうといいなということで作られているのがよく分かりました。

その中で啓林館、やはり皆さんがおっしゃっているように別冊が大変効果的だろうと思いますし、アクティブ・ラーニングということで、やはりここでも「みんなで話しあってみよう」と考えを出し合うことで、また分かる人が教えることでよりその人も理解が深まりますし、同年の人に教えてもらうことで、また教えてもらう人もやる気が出るということで、刺激しあえる形になっている教科書が、やはり皆さんのご意見どおりいいのではないかというのが私の感想です。

○教育長

啓林館がいいのではないかという意見が多数ですので、啓林館ということでよろしいでしょうか。

それでは、数学につきましては啓林館を採択します。

続いて、理科をお願いします。

○学校支援課長

理科につきましては、2東京書籍、11学校図書、17教育出版の3種が推薦されました。

東京書籍は実験のページに「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「まとめ」の表示があり、学習の流れが視覚的に示されています。また、まとめに至るまでの重要語句や実験結果が効果的に示されています。

学校図書は「問い」や「話し合ってみよう」など、協働的な学習のきっかけや活動が明確に示されています。随所に「話し合ってみよう」があり、協働的な学習活動が工夫されています。

教育出版はUDフォントが使用されています。カラーユニバーサルデザインに配慮され、カラーユニバーサルデザイン機構の認証を受けています。

以上が理科についての説明です。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、理科についてご意見、ご質問をお願いします。

○眞谷委員

私は理科が専門なものですから、3冊とも見せていただいたのですけれども、3冊どれを見ても、先ほどの3種の説明の中には東京書籍のところで実験のページに「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「まとめ」の表示があり、と説明がありましたが、内容的にはどれを見てもほぼそこはきちんとおさえられていて、高校進学後などにもそのまま使えるような形で非常に分かりやすく、実験のまとめ方については3冊とも非常によく作られていると感じました。

その中で、学校図書の教科書で、特に「レポートノートの書き方」という部分が非常によく分かりやすくまとめられていました。単元ごとに、基本操作というところでレポートの書き方、まとめ方が詳細に分かりやすく書かれておりまして、さらに実験結果の考察とまとめの部分は学校図書がほかの2冊と比べて一番分かりやすかったということが非常に私としては印象に残りました。そういう意味で、学校図書が、子どもたちが使うには一番ふさわしいのではないかと感じましたので、推薦させていただきます。

○伊藤委員

できるかどうかは別にして、私も理科が好きで一人だったので、今、理科離れということもいわれております。ここでも甲乙つけがたいですが、教育出版は特徴的というか、驚いたのですが、付録としてカメラがついていました。やはり理科に興味を持ってもらいたいということで、こういう取り組みもあるのだと感心しました。

あと、先ほど眞谷委員がおっしゃったように、学校図書の教科書についても詳しく見ていました。実験の図などは大変見やすいですし、写真がとても効果的であり、色調も非常に落ち着いていて、子どもたちに情報量として、量も写真の色合いも文字とのバランスもいいので、学ぶのにとってもいいなと思いました。教科書の専門家ではないのですが、たくさんの絵本などの活用もしておりますので、やはり紙面作りというのは大事ではないかと思えます。そういう意味で、どこの出版社も工夫されておりますが、学校図書の図や写真が充実しているということで、いいのではないかと思えます。

○佐藤委員

本当に甲乙つけがたいのですけれども、私は東京書籍の実験に関するまとめ方の例で、眞谷委員がおっしゃっていましたが、先ほど、「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「まとめ」というところの基本的なレポートの作り方が分かりやすくなっています。小学校から中学校の化学になると実験する。実験というのはどのように、ただ何となく授業でやるだけではなくて、それを振り返ってレポートにまとめ

るというのは大事だと思います。そういう中では、東京書籍の作り方は非常にいいなと思いました。

○藤田委員

私はどの教科書も全部視覚から入って行って見ました。そこで、学校図書の写真が一番自然に、普段私が見ている色合いが載っているのではないかと思いますので、学校図書がいいのではないかと思います。

○教育長

学校図書がいいのではないかという意見が多いようでございますけれども、何かご意見のあるかた、よろしいでしょうか。

では、理科につきましては学校図書を採択ということでよろしいでしょうか。

それでは、理科につきましては学校図書を採択します。

続いて、音楽一般をお願いします。

○学校支援課長

音楽一般につきましては 17 教育出版、27 教育芸術社の 2 種が推薦されました。

教育出版は、教材曲ごとに学習の目標を明確にし、知識・理解に関する情報を整理、厳選することで学習内容をとらえやすくなるような構成になっています。

教育芸術社は、歌唱教材の後に共通事項の内容を教材曲と結びつけて説明しています。歌唱表現と知識・理解に関する事項を関連させてとらえることができます。

以上が音楽についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

では、ご意見、ご質問をお願いします。

○織田委員

2 種どちらの教科書もとても魅力的で素晴らしいと思います。

教育芸術社の教科書なのですけれども、鑑賞教材のページが非常に充実していて分かりやすくなっていると思います。それと、いつも私は教科書を見るときに創作という、子どもたちに音楽表現を自分で作らせる単元のところに注目するのですけれども、教育芸術社の場合は創作のところで、いろいろなイメージを基に音を音楽にしていくという工程を、子どもたちが入りやすいやり方で、ワークシートをトライしていけるように作ったところが非常に素晴らしいと思います。

一方、教育出版社は同じように、鑑賞教材も非常に充実していて良い上に、日本の楽器についての扱いが丁寧です。楽器で演奏される音楽についての扱いが非常に多くて、「レッツトライ、お琴を弾いてみよう」という単元も非常に良いと思いました。それと、一番この教育出版の教科書ですてきだと思ったのは、教科書の左端と右端を上手に使っているところです。左端には学習の目当てなどが書いてあって、右端にその教材で出てくる新しく覚える記号や楽語などが書いてあったり、鑑賞のところでは、時代が年表になっていたりするのは非常に使いやすいのではないかと思います。

- 伊藤委員 どちらもそれぞれ特徴的なのですが、教育出版は色分けされた目次が大変見やすいと思います。あと、楽譜もとても見やすいと思います。
- 本当にそれぞれ工夫されているので、比較してどちらということは専門家ではないので言えないのですが、教育芸術社の音楽家が紹介されているところも大変特徴的だと思ひまして、いろいろな教科書の作り方があるのだなということで、身近に音楽家を感じることもできるでしょうし、音楽が好きであったり、目指す人もいるでしょうから、こういう作りも大変興味深いと思います。
- 見やすいという点で、教育出版の目次の見やすさ、色分けをしているというところで、工夫されているところが使うものにとってはいいかなと私は思ひます。
- 眞谷委員 今のご意見の、それでいいのではないかと思います。
- 教育長 それでは、皆さん教育出版がいいというご意見ですので、教育出版を採択するというところでよろしいでしょうか。
- それでは、音楽一般につきましては教育出版を採択します。
- 続いて、音楽の器楽合奏についてお願いします。
- 学校支援課長 音楽の器楽合奏につきましては、17 教育出版、27 教育芸術社の 2 種が推薦されました。
- 教育出版は、教材曲の楽譜の上に技能習得の目標だけでなく、共通事項にある音楽の要素やその関連について学習できるように構成されています。
- 教育芸術社は落ち着いた色調で見やすい紙面になっています。余白を効果的に、楽譜や説明写真が視覚的にとらえやすいレイアウトになっています。
- 以上が音楽の器楽合奏についてです。ご審議をお願いいたします。
- 教育長 それでは、ご意見、ご質問をお願いします。
- 伊藤委員 今、ご説明があったように、レイアウトなど工夫されているところを、両方の教科書を見てそれぞれの特徴を詳しく見ていました。
- 楽器ですので、私は主にリコーダーと琴のところを詳しく見比べました。全部比べられればいいのですが、それぞれ専門ではない楽器もありますので、その二つについて詳しく見てみました。そうしたところ、教育芸術社の琴の部分で、先ほど言ったように、レイアウトの工夫というところですけども、琴を弾くときの姿勢、構えがとても丁寧で、写真で表されていました。それがとても分かりやすいと思いました。
- それについて、教育出版は琴についていいなと思った部分があります。それは大切なところがとても大きな文字で表されていたり、その楽器を使うことができるようになるために導く文字が大変効果的で、白抜きの部分があったり、琴はどういう楽器かという説明の

部分も、やはり情報量と文字の大きさのバランスなのですが、教育芸術社も情報量は大変多いのですが、見やすいという点で、特にどちらも甲乙つけがたいのではありませんが、教育出版の文字が大変大きく見やすいということで、やはりいろいろな楽器に出会うとき、どうやって使うのかというときのガイダンスとして、文字も大事だと思います。

あと、リコーダーのところで見比べたときに、教育出版では、タンギングのところ、顔が横向きの図が示されているのですが、この辺の色使いや図の表し方が見やすいですし、その辺が吹くときに大変参考になるのではないかと思います。

どちらも甲乙つけがたいのですが、教育出版のほう、一般のほうもそうですけれども、使いやすいというところで、楽器についても教育出版が使いやすいのではないかと思います。

○織田委員

どちらもいいところがありすぎて困るのですけれども、教育芸術社のほうでは打楽器がとても丁寧に扱ってあります。いろいろな種類の打楽器について写真入りで説明があって、そのすぐ後に「リズム伴奏を工夫して演奏しよう」ということがあります。本当に楽しそうだと思って、これを使って子どもたちがいきいきと学習する姿目に浮かぶようだと、非常に素晴らしいことだと思います。

一方、教育出版は、先ほど伊藤委員も言うておられましたが、日本の楽器について、とても丁寧に解説があります。あまりなじみのない楽器を前にして、子どもたちがどのように準備して演奏に向かうかと、準備のところから細かく詳しく書いてあるので、学習する上で非常に進めやすいのではないかと思います。特に、三味線の解説では、三味線はしまっているときはだいたい駒を外してあるのですけれども、どのように駒を立てたら良いかということまでも細かく写真が出ているので、子どもたちも準備のところからきちんとできるのかなと思って、魅力的だと思います。

○藤田委員

私も教育出版のほうがいいのではないかと思います。私も楽器は苦手なのですが、子どもお琴教室を開いたことがありまして、そのときに教えたことを思い出して琴のところを見せていただいたのですけれども、やはり準備するところも出ているということでもとても分かりやすかったので、教育出版のほうがいいのではないかと思います。

○教育長

教育出版がよろしいのではないかとのご意見ですので、よろしいでしょうか。

それでは、音楽の器楽合奏につきましては教育出版を採択します。続いて、美術をお願いします。

○学校支援課長

美術につきましては、9 開隆堂、38 光村図書、116 日本文教出版の3種が推薦されました。

開隆堂は美術とキャリア教育との関連を意図し、美術で学んだ力を生かして社会で働いている方々の話が紹介されています。目次の文字が大きく記載され、UDLへの配慮がなされています。

光村図書は日本文化の紹介、迫力ある実物大の火焰土器、螺鈿のアップ写真を設け、日本文化への理解を通して言語活動を誘う鑑賞への工夫があります。

日本文教出版は安全、防災教育に関する校閲を専門家から受けており、自らが安全、防災に対するデザインに取り組む題材が設定されています。

以上が美術についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○藤田委員

私は各社見せていただいたのですが、その中でも光村図書の谷川俊太郎さんの文章から美術に結びつけていくという、美術が苦手な人にでも入りやすい工夫がされているところがとてもいいと思います。

ページごとに細かくこうやったらいいということが書いてあって、とても苦手意識があるのですが、それを見ていると私も絵が描けるかなという気持ちになりました。

あと、ページをめくっていくと風神、雷神とか、声が聞こえそうだと思って見ていたら、下のほうに会話のような感じで風神、雷神の音が聞こえそうなところが出ていたりしたので、美術が苦手な人にはこの教科書がいいのではないかと思いました。

○齋藤委員

非常に各社とも工夫していますが、美術というのは本当に好みですよ。美術に対する考え方は皆さん千差万別、先生も、それから生徒も違うと思うのだけれども、好みなのです。

見開きのものを作ったり、等身大のものを掲載したりいろいろ工夫されています。私はやはり美術の教科書は視覚というのも大事だと思うのです。私の感想ですが、光村図書の教科書は非常に写真を多く使っていて、鮮明で、ぱっと視覚に訴える。レイアウトを含めてそういう印象です。

細かい評価はなかなか難しいと思うのだけれども、私は個人的にはそういう印象を受けました。

○佐藤委員

美術という科目は、直接将来の生活にどう結びつくのかというのはよく分からなくて、生徒にとっては何のためにやるのかがなかなか見つけられないところがあるのではないかと感じております。

その中で、開隆堂が生活や暮らしの中にある美術について説明されています。実際に仕事として扱っている方の言葉が載っています。

昨今、キャリア教育などが重要視されていますけれども、そういう部分では開隆堂の視点は非常に重要だと思いました。

○眞谷委員

今、佐藤委員がおっしゃった部分、私も開隆堂のその部分は非常

に興味を持って見たのですが、それがその先のどこにどう結びつくのかと思うと、そのところだけで終わってしまっているような印象がしてしまって、とてももったいないと思ったのです。

もう少しこれは発展させてもらって、このことがこのページのここにつながって、というような発展性があるとなお一層効果的だったのかなと思って、少しもったいなかったなと思っています。

○吉村委員

齋藤委員おっしゃったように、見る人によって随分違うのではないかと思います。

作者や生徒の言葉や感想がそこに載るとというのが私は好みなのですが、そういう意味では、図版のところでは光村図書のほうが若干言葉の部分が多いかなと。長めに記載があるということで、それも非常に丁寧に大事に扱っていて、子どもが創作活動を行う意欲が上がるのではないかという感じを持ちました。

○伊藤委員

私は光村図書でいいのですが、共通して大変いいと思ったのは、どれも環境に配慮した用紙やインクを使用しているというところです。環境と関わるようなキャリアに進んだりもすると思うのですが、教科書自体がこういうことを配慮して作られているというところは、どれも共通してそうなのですが、いいことだと思います。

私個人的には、光村図書の内容、実物大の火焰土器などが大変よかったですので、私は光村図書がいいと思います。

○教育長

それでは、美術について、光村図書ということでよろしいでしょうか。

では、光村図書を採択します。

続いて、保健体育をお願いします。

○学校支援課長

保健体育につきましては、2 東京書籍、4 大日本図書、50 大修館の3種が推薦されました。

東京書籍は学年別の構成で、各学年の学習内容が明確になっています。「生かそう」など、発展につながる内容も適宜示しています。随所に働く人の姿を紹介してキャリア教育へも対応しています。

大日本図書は、各項ごとに学習を進めつつ、章末における「学習のまとめ」で重要語句や学習の要点をまとめて振り返るようになっています。

大修館では、本文背面に薄黄の地色を敷いて図表等と区別しています。また、「活用」、「実習」、「発展」と段階に応じた発問や課題が用意されています。

以上が保健についての説明です。ご審議をお願いいたします。

○教育長

では、ご意見、ご質問等をお願いします。

○吉村委員

全体的な感想ですが、写真やイラストや資料を最新のものを印刷してあるということで、感心しました。

中でも大日本図書の資料などは、どう表現していいのか、ごちゃ

ごちゃしていない、豊富なだけでなくもきちんと鮮やかに浮かんでくるのです。ひょっとしたらなのですが、これは単に教科書の台紙の色、背景が、同じ白でもいろいろな白があるので、そういうものによって違うのかなと思いました。いずれにしても豊富な資料や写真、文字などは大日本図書が一番はっきり見えていると思いました。

それから構成の中で、必ず学習のまとめを作っているのですが、東京書籍と大修館はまとめの内容については、「考えてみよう」とか「もう一回よく調べてみよう」という書き方なのです。大日本図書はきちんと「こうである」というようにもう一度短くまとめて整理してあります。この違いなのですが、きちんと書いてある大日本図書がいいという感じを受けました。

それから全体的な特徴の中で、「リンク」という欄があって、一つのことに對して他の項目との関連の中で子どもたちに考えさせるという配慮を感じ取れたのが1点。保健体育というのは、特に保健のほうですけれども、さまざまな要素が重なり合うので、うまくいかないの一つのものがきちんといかないということがあります。健康とか安全とかですね。そういう意味では、他の項目と常に関連づけて考えさせるというのは非常に大事だと思います。

まとまらないような話ですけれども、私はそういう意味で大日本図書がいいと思います。

○齋藤委員

今、吉村委員が言われたように、「保健体育」といっても非常に広いというか、漠然としている部分があります。そういった意味では、吉村委員の言われたとおりで、「リンク」という発想、こういうものに関して広げていく、関連づけて考えていくということで、大日本図書がいいのではないかと思います。

あと、個人的に私は東京書籍の最初の何ページかが大好きで、イチローもいれば室伏もいて、なおかつスポーツを支える栄養士の方たちとか、いろいろな形で実際に活動している人、支えている人たちをピックアップして興味付けをしています。なおかつこの教科書の使い方ということで、大修館にもありましたけれども、先ほど申し上げたように幅広い内容なので、この教科書をこれからこのように使っていくのだと、こうやって学んでいくのだという姿勢が分かりやすく、東京書籍のレイアウトが私は非常に気に入りました。

○伊藤委員

保健体育という教科の性質から言うと、やはり印象は非常に大事だと思うのです。そういう意味では、どの出版社も大変印象のいい、表紙から工夫してあるというのが、中身もちろんいいのですが、それぞれ工夫されて作られていると思いました。

内容については、吉村委員がおっしゃったように大日本図書のものが、文字と絵が大変見やすいという印象です。あと、図柄についても色調が大変いいです。皆さんの健康のために学ぶ授業ですので、

やはり教科書の色調は大事ではないかと。環境関係に興味があるのですが、やはり色というのは大事だと思うので、大変この1冊は印象深かったです。それから表紙を見ますと、青空。これはデジタルなのか実写なのか分かりませんが、3種それぞれ、イラストを大変効果的に表紙を作られています。この青空が見ていて大変気持ちも明るくなるようで、表紙の隅々から全部作り手の方々が工夫されているとは思いますが、この3冊の中で印象深かったです。中身が見やすいという点で、私は大日本図書がいいと思っています。

○眞谷委員

保健体育というのは非常にいろいろな分野が入っていますので、それぞれ見方があると思うのですけれども、私としては東京オリンピック・パラリンピックが決まっているということで、その部分に注目してみたのです。

大日本図書に「オリンピック・パラリンピック」というページがあります。オリンピックが左側、パラリンピックが右側で、写真入りで同等の扱いで掲載しています。ほかの2種は少し扱いが違いうように感じられるのです。東京で二つの大会を迎えるという意味で、日本にはいろいろな有名人がいらっしゃるのでしょうけれども、国枝慎吾さんという、車いすテニスで今、世界ランキング1位をずっと続けている方がいます。世界のプロテニスプレイヤーの中では「日本だったら国枝」と、錦織さんよりもむしろ国枝さんのほうが有名だというくらいの人なのです、本当は。日本人だけがあまり知らないというだけです。この方の写真が3種すべて載っているのですけれども、一番大きくど真ん中に載っているというのが大日本図書で、そういう意味ではパラリンピックの扱いが一番いいなという感じがします。しかも写真がきれいですし、それが私としては印象に残りました。

○教育長

大日本図書というご意見が多いようですけれども、保健体育につきましては大日本図書でよろしいでしょうか。

それでは、保健体育は大日本図書を採択します。

続いて、技術・家庭の技術分野をお願いします。

○学校支援課長

技術・家庭の技術分野につきましては2東京書籍、6教育図書、9開隆堂の3種が推薦されました。

東京書籍は各内容の始めに小学校や他教科との関連がまとめられています。また、各編の最後に「評価・活用してみよう」、「学習のまとめ」があります。

教育図書は各内容の最終章が「章末問題」、「まとめ」になっています。また、発展題材や資料的内容に関する図や写真が多くあります。

開隆堂は各章の終わりに内容のまとめをする項目が設けられています。また、学習のまとまりごとに「ふり返り」があり、各内容に

「社会、環境とのかかわり」の項目が設定されています。

以上が技術・家庭の技術分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

では、ご意見、ご質問をお願いします。

○佐藤委員

技術は中学に入ってから学ぶということで、小学校は図画工作なので延長線になるかもしれないのですけれども、ただ書いたり作ったりということではなく、いろいろなことを学ぶという意味では、生徒にとっては新しい未知の科目なのではないかと感じました。

3種とも、技術・家庭の技術分野で「どういうことを学ぶのか」ということで、技術分野の内容の説明がされていて、どの教科書も素晴らしい配慮がされていると感じています。

一つの部分としては、実際に、鋸を使ったりいろいろな作業をするわけですが、それに対しての安全の配慮という部分では、東京書籍と教育図書の2種は最初のほうでその都度注意するところ、安全に配慮するところがまとめて書かれています。その辺はこの2種の教科書が優れていると思いました。

東京書籍と教育図書の内容を比較して見ていたのですが、東京書籍は作業をしている生徒の写真が多く載っているのですが、特にその写真が女子生徒なのです。どちらかという技術・家庭の技術分野は、男子生徒のほうかなというイメージが強いと思うのですが、女子生徒でも取り組みやすく分かりやすいという、そういうところに配慮がされているのかなと感じました。全体的な配慮という部分では、東京書籍が一番いいのではないかと感じています。

○織田委員

どの教科書も、非常に作り方とか工程が細かく写真や図で表されていて、本当にこの教科書を見ながら忠実に頑張れば、もしかしたら先生の説明を聞かなかった子どももできてしまうのではないかなと思うくらい丁寧に解説してあると思います。素晴らしいと思います。

どの教科書も魅力的なのなのですが、私が気に入ったのは東京書籍の「技術の匠」という欄です。実際にその技術を使って世の中で活躍している方々のコラムなのですが、これは子どもたちが本当に興味を引くのではないかなと思って、私自身が一番食いつきました。

○伊藤委員

甲乙つけがたくて悩むところなのですが、技術というのは専門的な分野なので、どちらも特徴的なのですが、東京書籍でしょうか、図で表されているとかそういうところで見やすいですし、あと、正確に描かれているということがその單元にはとてもいいなという印象で、私はそれがいいと思います。

○教育長

東京書籍というご意見ですので、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

それでは、技術・家庭の技術分野については東京書籍を採択します。

続いて技術・家庭の家庭分野をお願いします。

○学校支援課長

技術・家庭の家庭分野につきましては、2東京書籍、6教育図書、9開隆堂の3種が推薦されました。

東京書籍は、全体を通して小学校や他教科との関連について示しています。食生活のところで新潟市の農産物直売所が紹介されています。

教育図書は、内容の終わりに「学習のふり返し」があり、見開き記述式の問題があります。生徒が直接書き込む方式の空欄や表を設けています。

開隆堂は全ページの下に豆知識があり、補充発展的な内容が記述されています。全体を通して「持続可能な社会」にかかわるページや記述があります。

以上が技術・家庭の家庭分野についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○織田委員

とても興味深くいろいろな教科書を見せていただいたのですが、中でも教育図書の自立度チェックというものがあることに惹かれました。「自分はこういうことができる」、「できない」という自分の自立度をチェックするページです。技術・家庭の中で家庭分野では、生活の中で自立ができているかどうか大きいポイントだと思うので、そのチェックをした上で学習に入るというのはなかなか素晴らしいと思いました。

それから、開隆堂では実際に学んだことを生活の中で生かすためにどうしたらいいのかという事を、子どもたちで話し合っ進めていこうというところが、私は興味深く思いました。

ただ、私が一番ポイントにしたのは、幼児との関わりの学習です。子どもたちが地域との交流で保育園に職場体験で出かけていたり、または多世代交流で学校に保育園や幼稚園の子どもたちが来て交流を持ったりという場面が最近が増えてきて、教育現場でそういうことをたくさんやっているという報告を受けているので、幼児とのかかわりのところに注目してみました。その観点で見ると、東京書籍が一番幼児との触れ合い体験に紙面をたくさん割いていますし、また、細かく記述してくださっていました。中学生が幼児のことをしっかり理解したうえで、幼児との触れ合い体験を持つ、その前段階の学習として、非常に使いやすい内容が配列されているのではないかと思います。

○藤田委員

私は最初から申し上げているようにどの教科も視覚から入っていきまして、苦手なものはぱっと見てとっつきやすいものが一番いい

のではないかと思います。それでいくと東京書籍が入りやすいかなと感じています。

○伊藤委員

本当にどこの出版社も工夫されて、家庭科というのはとても大事な、人間の生涯にわたる知恵を学ぶという大事な单元だと思えますが、いろいろな内容が今の家庭科の中に入っているなと思いました。

その中で、それぞれ特徴がありますけれども、東京書籍が料理のレシピ本のように、非常に詳しく調理に大変意欲をかき立てるような分かりやすい表現で、私も料理好きなほうなのですが、とても見やすい工夫がされていると思いました。

あとは、先ほどもお話が出ていたように、東京書籍のユニバーサルデザイン化という中で、写真が大変工夫されていて、レイアウトやイラストの効果的な活用と、見やすいということで、やはり意見としては一緒ですが、東京書籍がいいと思います。

○教育長

皆さん東京書籍というご意見ですので、東京書籍ということによるのでしょうか。

では、技術・家庭の家庭分野については東京書籍を採択します。

続いて、英語をお願いします。

○学校支援課長

英語につきましては、2東京書籍、9開隆堂、15三省堂の3種が推薦されました。

東京書籍は小学校の「Hi, friends!」に関連づけた「Hi, English!」(聞く, 話す)と「Unit 0」(読む, 書く)の二層型入門期で小学校との円滑な接続を意図しています。

開隆堂は、各学年の巻末に「英語で『できるようになったこと』リスト」を付けて、定期的に学習状況とその成果をふり返り、チェックができるようにしています。

三省堂は「Project」で各学年3回の統合的活動が設定され、アクティブ・ラーニングを意識した言語活動が設けられています。また、自学自習のヒントを提供し、自立的な学習の育成を図っています。

以上が英語についてです。ご審議をお願いいたします。

○教育長

それでは、ご意見、ご質問をお願いします。

○吉村委員

私、個人的には英語が一番分からなくて、この答申を拝見したときにも、イングリッシュが出てくるとそこからまず調べ始めなければならない。中学校、高校の英語の授業を見に行くと、余所の国の言葉はなかなか理解しがたいという苦しみがあるのですが、今回の答申もけっこうふんだんに英語が使っているため、委員方も苦勞されたのではないかと思います。採択とは違う話になりますけれども、もう少し分かりやすい言葉で表記してもらえればと思います。

そんな私が拝見した各書の中で、私は三省堂がいいと思います。非常に英語で苦しんだ私、それから日本人の英語の学習について、

いろいろあり方が問われているわけですが、教科書の目次の次に、生徒たちに向けての「教科書の使い方」というページが必ずあります。これが三省堂は圧倒的に詳しい。私のように英語が苦手な者は、これを見ながら少しは自主的な、あるいは主体的な学習意欲を向上することができると思います。この教科書の学び方についての説明について、三省堂がいいなと思います。

もう一つは、先ほど課長のお話にあったのですが、自立的な学習を促すために辞書の使い方あるいはいろいろな学習方法など、そういうものが三省堂は一番丁寧に説明しているという印象を受けました。そういうことで、私は三省堂を推薦したいと思います。

○伊藤委員

見やすい教科書なのでどれもいいなと思ったのですが、少し特徴的だと思ったのが、三省堂なのですが、アイデアマップということで大切なものを人に紹介する、伝えるときにどう伝えるかという考えをまとめるマップ図が載っていました。英語そのものを学ぶことも、伝えるために導くこういうアイデアも大事なのですが、大事なのは人に自分の考えや物事を伝えるということで、その道具が英語なので、こういう手法を分かりやすく、また書き込み式になっているので、自分でもやってみようというような気持ちになると思います。

プロジェクトの③というところが非常に興味深く、私も仲間たちといろいろな意見を出し合うときにこういうマッピングをやるのですが、新しい手法ですけれども、とても簡潔で納得しやすい手法なので、これが英語の中でも使えるというところで興味を持ちました。

三省堂の教科書が大変興味深く、私が中学生だったら使って学んでみたいと思っています。

○藤田委員

開隆堂がいいと思います。

私は日本語教育で外国人に日本語を教えているのですが、そのときにやっているようなことが、開隆堂の「My Project」でも、ちょうど同じようなことをやっています。外国人が日本語を覚えるときにこうやって日本語を覚えるなら、同じように日本人が外国語を覚えるときもこの「My Project」のような内容でやっていくと覚えやすいのかなと。プロフィールカードとか、一番後ろにカードが出ているのですが、そのようなものを利用しながら教えているので、開隆堂に興味を持ちました。

○佐藤委員

三省堂のProjectは、これによって生徒同士での実際の会話といえますか、そういうことにつながるような内容になっていると思います。実際に英語を使っての話し合い、アクティブ・ラーニングに使うと思うのですが、そういうところは三省堂が非常に優れていると思いました。

○齋藤委員

私が興味深かったのは開隆堂で、どの単元も右のページが会話方式になっています。会話というのは日本人が最も苦手なところであ

るのですけれども、このような提示は良いと思います。

それから、数学と同様で、やはり英語も個人差がどんどん出てきて、2年になっても1年に学んだことができないと、なかなか先へ進めない。開隆堂の一番後ろに、1年、2年、3年で「できるようになったリスト」があります。こういったことでも、少しずつ段階を踏んでチェックしていかないと後で苦勞するぞということが感じられる。これは有意義だと感じました。

○織田委員

開隆堂、三省堂を推す中で、へそ曲がりですけれども、東京書籍の教科書で「英語の歌を大きく取り扱っていただいている」所に非常に興味を持ちました。私自身、英語は全く分からないけれども、英語の歌を歌いたいが為に、さらには、かっこよく発音したいが為に英語の歌を何回も、テープレコーダーで聞き、カタカナで書いて覚えた覚えがあります。いろいろなところから子どもたちの興味を英語につなげる、世界につなげるためには良い試みだと。東京書籍の教科書でとても大きく取り扱っていただいているので嬉しく思いました。

○眞谷委員

それぞれにいいところがあって、甲乙つけがたい思いますが、皆さんの意見を聞いてなおさら決めがたくなっています。

今、筆記体があまり使われなくなっているように思うのですが、三省堂の一番後ろに特集のような形で英語の文字の特徴、付録がついていて、付録のところで英語の筆記体で楷書体、それから今はあまり使われていないと思うのですが、草書体などを載せてもらっているのが面白いと思います。付録の部分が三省堂は、それ以外にも充実しているとは思っていたのですけれども、それだけで決め手になるかどうか。

本当に皆さんの意見を聞けば聞くほどなおさら甲乙つけがたいと思って、今、悩んでいるところです。

○教育長

一番多い三省堂ということによろしいでしょうか。それでは、三省堂が一番多いということで三省堂を採択するというによろしいでしょうか。

それでは、英語につきましては三省堂を採択します。

○佐藤委員

すみません、私の発言を訂正させてもらっていいですか。技術分野のところでは最初に発言させていただいて、作業の安全に関して記述されている教科書を2冊申し上げたのですけれども、メモを見ていたらメモが間違っていました、東京書籍と教育図書と発言してしまったのですが、もう一回確認しましたら東京書籍と開隆堂の巻頭にまとめて載っていますので、発言を訂正させていただきます。

ただ、私としては開隆堂でも教育図書でもなく、東京書籍を最終的に推薦しておりましたので、採決としてはそのままお願いしたいと思います。

○教育長

分かりました。

それでは、中学校が終了しましたので、続いて新潟市特別支援学校・学級用一般図書についてお願いします。

○学校支援課長

新潟市立特別支援学校・学級用一般図書についてです。特別支援学校・学級用においては、その障がいにより教科書目録に登載の教科書が適さない場合には、学校教育法附則第9条の規定により、教科書目録によらない図書を教科用図書として使用することができます。このことを通称一般図書と呼称しています。この一般図書の採択に当たり、文部科学省の通知により、まず、文部科学大臣の検定を経た他学年用教科書または文部科学省著作教科書の採択を十分に考慮すること。これ以外の図書を採択する場合には十分調査研究して児童の障がいの種類、程度、能力に応じた適切な図書を採択することとしております。

では、平成28年度に使用する一般図書について説明申し上げます。付議101ページをご覧ください。文部科学省や県の研究資料にある325冊から調査研究し、さまざまな児童生徒の実態に対応できるように推薦いただきました。そして、1冊1冊について段階をA、B、Cの3段階に分け、図書としての特徴、教科用図書としてのよさや活用方法を推薦理由等として記述いたしました。なお、一般図書の調査研究に当たっては、本年度の小中学校と区別支援学級の保護者、特別支援学校小・中等学部の保護者から専門調査員を引き受けていただきました。保護者としての考えや要望を検討や協議の中で出していただき、調査研究は大変深まったことを報告いたします。

以上でございます。ご審議をよろしく願いいたします。

○教育長

特別支援学校・学級用一般図書について、推薦された図書が提示されております。A、B、Cの3段階、障がいの程度に応じられるようにということですのでこのようになっておりますが、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

ございませんでしょうか。児童や生徒に接している先生方、保護者の方々の意見もきちんと反映されているということですので、ここに記載されているとおりに採択することによってよろしいでしょうか。

それでは、そのように決定します。

続いて、新潟市立高志中等教育学校前期課程について、お願いします。

○学校支援課長

高志中等教育学校前期課程についてです。高志中等教育学校では、知性と人間性にあふれ、高い志を持つ未来のリーダーとなる生徒を育成するを教育目標とし、その達成のための具体的な方策を四つ示しています。一つ目は、学習内容を効果的に組み合わせるなど、6年間の連続性を生かしたカリキュラムを編成するという連続性。二つ目は、前期課程では年間1,085時間の授業時間を確保し、個に応

じた丁寧な学習指導を行うという発展性や多様性。三つ目は、自ら課題を解決していく中で知識、技能を活用する力を身につける追求型の学習を重視するという課題性。四つ目は、仲間とともに学ぶ協同的な学習を計画的に実施するという協同性があります。

続いて、付議 125 ページをご覧ください。各教科の教科用図書の調査研究の観点については、各教科の特性に応じて設定されています。例えば、国語では、高志中等教育学校前期課程の国語科指導における課題。高志中等教育学校前期課程の国語科指導における重点などの観点が設定され、推薦が行われました。

以上、ご報告いたします。

○教育長

それでは、これから高志中等教育学校前期課程用教科用図書を採択いたしますので、内容の説明をお願いします。

○学校支援課長

平成 28 年度に使用する高志中等教育学校前期課程用教科用図書については、ごらんいただいている一覧表のように推薦されました。これらの調査研究の報告を受けて、平成 28 年度に使用する高志中等教育学校前期課程用教科用図書については、平成 27 年度と異なる教科用図書が推薦された教科のみ説明いたします。

平成 27 年度と異なる教科用図書が推薦された教科は国語です。付議 125 ページの 3、高志中等教育学校の教材として（推薦理由）をご覧ください。国語については 15 三省堂が推薦されました。15 三省堂は資料編が充実しており、小論文の書き方の指導に使えるようになっています。小論文は後期課程において重要な指導事項であり、前期課程から継続して指導を行うことができるようになります。また、話すこと・聞くこと、書くことなどでは、言語技術や学習内容が体系化されており、より高次の学習につながりやすくなっています。

以上が国語についてです。他の評価は平成 27 年度と同じ教科用図書が推薦されています。一括ご審議をお願いいたします。

○教育長

高志中等教育学校前期課程の推薦された図書が提示されています。国語以外は前年度まで使用されたものであるということですが、何かご意見、ご質問がありましたらお願いします。今回、国語が三省堂に替わったということをございます。ご意見等ございませんでしょうか。

○織田委員

国語は平成 27 年度まで光村図書を使っていたけれども、平成 28 年度に三省堂に変えると。そのポイントがこの説明にあるように、「言語技術」ということで、言語活動を大事にしている本市の教育方針に添った形で、より言語活動を高めるという意味での変更だと理解しました。すべての教科書を見せていただいた中でも、確かに三省堂の教科書の扱いは言語活動を非常に活発にするための課題があり、また教材の配置などもそのように配慮されていることがよく

分かりましたので、この変更は私も賛成です。

○教育長

ほかにご意見ございますでしょうか。

それでは、高志中等教育学校前期課程の教育目標や学習の狙いを反映させるということですので、その申請のとおりということでしょうか。

では、ここに記載されているとおり採択いたします。

それでは、議案第 10 号及び議案第 11 号を承認してよろしいでしょうか。

では、以上で平成 28 年度使用新潟市立小学校用教科用図書、中学校用教科用図書、特別支援学校・学級用一般図書、高志中等教育学校前期課程用教科用図書のすべての採択を終了いたします。

ここで、開始から 2 時間経っておりますので、10 分ほど休憩を入れたいと思います。今、16 時 35 分ですので、45 分再開ということで、10 分間休憩します。

(休 憩)

第 4 次回日程

○教育長

次回の日程について説明を求める。

○教育総務課長

8 月につきましては、8 月 28 日金曜日午後 3 時 30 分から、9 月につきましては、9 月 25 日金曜日午後 3 時 30 分から、10 月につきましては、10 月 26 日月曜日午後 3 時 30 分から定例会を予定しております。

第 5 協議会

○教育長

定例会を一旦終了し、協議会に移ります。

それでは、これより協議会ということで、「教育委員会の事務の管理及び執行状況に関する点検・評価について」教育総務課長からお願いいたします。

○教育総務課長

平成 19 年 6 月の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会は事務の執行状況に関する点検・評価を実施し、報告書を議会に提出することが義務づけられました。今年度で 8 回目となります。昨年度と同様にこの報告書を 9 月市議会定例会に提出したいと考えておりますので、本日の協議会で内容等についてご協議をお願いいたします。その後、本日の協議内容を踏まえ、8 月教育委員会定例会で付議事件としてご審議いただく予定としております。

それでは目次をご覧ください。全体の構成となっております。基本的には、昨年度と同様の構成としております。Ⅰはじめにでは、本報告書の位置づけや概要などを記載しており、Ⅱ教育委員会の活動状況については、教育委員会会議の開催状況や平成 26 年度の主な取り組みと成果などについて記載しております。また、Ⅲ新潟市教育ビジョンの施策評価については、個別分野の施策評価として、

ビジョンの平成26年度の実施状況や進捗状況などについて点検評価を実施した内容となっております。

それでは、報告書の内容についてご説明いたします。Ⅱ教育委員会の活動状況についてです。はじめに、教育委員会議の定例会及び臨時会について、会議ごとに主な議案や報告案件などを記載しており、ページの中ほどでは会議の公開状況などについて記載しております。続いて、教育委員会会議以外の活動状況ということで、教育委員の市内視察や県外視察の状況、そして本市が加盟しております指定都市教育委員教育長協議会や市町村教育委員会連合会などへの参加状況、また、区教育ミーティングなどの開催状況、学校周辺事業などへの出席状況などを記載しております。

次に、平成26年度の主な取り組みと成果として八つの項目を挙げております。1点目は教育委員の増員と教育ミーティングのモデル実施について取り上げさせていただきました。教育委員が区の特長や教育現場の実情を把握し、市全体の教育に生かすため教育委員を3人増員して9人体制とし、教育長を除く8人が4人一組で四つの区を担当し、その活動として各区の自治協議会と意見交換を行う区教育ミーティングや中学校区ミーティングのモデル実施の取り組みについて記載しております。

2点目は学校適正配置の推進について取り上げております。学校適正配置基本方針を策定し、複式学級等の緊急性の高い地域から協議を開始し、いくつかの地域では地域検討会が設置されました。平成28年4月に潟東東小学校、潟東西小学校及び潟東南小学校の3校を新設統合することを正式に決定したところです。平成29年4月をめどに満日小学校を阿賀小学校に編入することを地域検討会から要望書が提出され、統合に向けた調整を進めています。学校の存続要望のあった地域とも、今後の学校のあり方について現在も検討していることを記載しております。

3点目及び4点目はいずれも継続の事業でございます。重点的な取り組みである基礎・基本を身につける教育の推進と9ページの地域と学校パートナーシップ事業の充実について記載しました。

5点目はアグリ・スタディ・プログラムの取り組みの開始について取り上げております。昨年6月にいくとびあ食花、アグリパークがオープンし、学校教育田、学校教材園、近郊の農家での農業体験を合わせた教育ファームの取り組みを開始し、その中心となるアグリ・スタディ・プログラムの内容や施設の利用状況などについて記載させていただきました。

6点目はいじめに関する第三者委員会の設置についてです。いじめ防止対策推進法の施行に伴い、新潟市いじめ防止等のための基本的な方針を制定し、いじめ防止市民連絡協議会、新潟市いじめ防止

対策等専門委員会、新潟市いじめ問題調査点検委員会の三つの組織を設置し、いじめの未然防止、早期発見、対応の取り組みを推進していることを記載しました。

10 ページをご覧ください。社会教育分野の取り組みについて述べさせていただきます。7 点目は生涯学習センターの事業となります。第 20 期にいがた市民大学事業の実施では、第 20 期目の節目を迎えたにいがた市民大学事業の記念講座を含む全 7 講座の実施や、白川英樹博士による記念講演を行ったことを記載しております。

最後ですが、図書館事業として新津図書館、坂井輪図書館の開館と新たなサービスの実施について取り上げております。新津図書館の新築移転と視聴覚センターの視聴覚教材等貸出業務を引き継いだことや、坂井輪図書館の耐震改修工事が終了し、西区の中心図書館に位置づけたことを記載しております。

次に、新潟市教育ビジョンの施策評価についてご報告いたします。**Ⅲ新潟市教育ビジョンの施策評価について。**1, 平成 26 年度施策評価一覧をご覧ください。評価は 1 から 4 までの数値で示されており、目標どおり達成した場合は 3 となります。平成 26 年度は 62 施策のうち数値評価ができた全施策の平均が 3.09, 網掛け部分の五つの学びの扉に関する 13 施策の平均が 3.03 となり、両方とも昨年度を少し下回りました。しかしながら、評価が 3 以上になった施策は全部で 45 施策となり、指標どおりもしくは指標以上に達成できた施策の割合が 75.0 パーセントとなりました。これは教育施策全体の指標目標 75 パーセントと同数値であるため、ビジョンの施策全体としては着実に進捗しているものと判断しております。本報告書には学びの扉に該当する施策など重点的に取り組みを進めてきた施策につきまして、星印で示した 16 の施策を掲載させていただきました。

1 - (3) 基礎・基本を身につける教育の推進から説明させていただきます。これは後期から学びの扉に入った施策で、施策評価は昨年度と同様に 3. 2 となりました。指標 1 - (1), 1 - (2), 小 6 国語, 算数では全国平均を上回った児童の割合が国語が 70.7 パーセント, 算数 73.4 パーセントと目標を大きく上回り, 4 となりました。指標 2 - (1), 中 3 国語では目標に少し届かず 2 となりましたが, 指標 2 - (2) 中 3 数学では 62.8 パーセントと大きな伸びを見せ, 昨年度よりさらに 3.5 パーセント向上し, 4 となりました。これは授業改善研修会の実施や指導主事学校訪問で授業改善について具体的な指導を行った結果, ほとんどの教科で学力が向上したものでございます。

続いて, 下の段, 2 - (2) 体験活動・ボランティア活動の支援でございます。学びの扉に該当する施策で施策評価が 3.0 となりました。指標の 1, 子ども農山漁村交流プロジェクト参加校の割合では

94.6 パーセントの参加率となり、平成 24 年、25 年度の 100 パーセントからわずかながら目標を下回りました。これは集団宿泊教育施設などを利用した自然体験学習推進事業に変えて新たに農業体験学習、アグリ・スタディ・プログラムのモデル校となり、アグリパーク事業の取り組みをスタートさせた学校があったためでございます。指標 2、ジュニアリーダー育成講座の修了者数では、中央区で中学生を対象に実施し、修了者の累計も 266 人となり、4 の評価です。

次に、2－(4) いじめ・不登校への対応です。こちらは社会的関心の高い施策ということで取り上げたものでございます。施策評価は 2 と昨年度から 1 下がりました。本市が進める自律性と社会性をはぐくむ生徒指導推進のため、管理職、主任層を対象とした研修会を年間を通して実施することで、市が進める生徒指導の浸透を図ってきました。いじめや不登校の一つ一つの事案について丁寧に対応し、確実な解消に努めるとともに、いじめ、不登校とも問題の解決に向けては一層努力が必要な状況であることを認識し、平成 27 年度も取り組みを進めてまいります。

続いて、2－(5) 非行等への対応です。いじめ、不登校と併せ、生徒指導上の重要な課題であることから取り上げたものでございます。指標は非行、暴力事故に関しては日常の指導による未然防止が重要という観点に対し、平成 24 年度より非行、暴力事故の解消率から発生件数の減少という形に指標を見直しております。非行、暴力事故は平成 19 年度以降は減少傾向にありましたが、平成 25 年度以降は増加に転じております。課題解決的な生徒指導だけでなく、予防的な生徒指導をより一層充実させることで未然防止に取り組んでまいります。

続いて 2－(6) 体力づくりの推進です。学びの扉に該当する施策で、評価は 2 となりました。このような評価となったのは、指標が全国平均値を上回った項目の割合と全国平均との比較となっており、全国平均が向上すると相対的に上回る種目数が減少することになります。中学生の体力自体は全国と比較して少し上回っている状態です。また、新潟市の小学生、児童については全国的に見て非常に高い位置にございます。

続いて、2－(8) 食育の推進です。こちらの施策も学びの扉に該当するもので、施策評価は 3.5 となり、昨年度の 2.8 から大きく伸びております。指標 1、児童生徒の朝食欠食率は目標を下回りましたが、1.4 パーセントと非常に低い割合を維持しております。また、指標 4、肥満傾向の児童生徒の割合は昨年度よりさらに減少し、4 の評価です。食に関する指導や健康教育の継続した取り組みによる成果が現れております。

続いて、中段の4－(2)特別支援教育のサポート体制の推進です。学びの扉に該当する施策で、施策評価は4でございます。指標1、特別支援教育サポートセンターによる校内委員会支援延べ件数、指標2、特別支援教育ボランティア登録者数はどちらも目標値を大きく上回りました。登録後、配置を進めているボランティアの数も99人に上り、配慮を要する児童、生徒の支援に役立っているという声が学校から寄せられております。

続いて5－(1)校種間連携の推進です。学びの扉に該当する施策で施策評価は3.0です。指標1は100パーセントとなりました。継続的で一貫性のある生徒指導や進路指導、教員研修等について方向性を検討し、実施いたしました。

続きまして、6－(1)人権教育・同和教育の推進です。いじめ問題との関連で取り上げさせていただきました。施策評価は3となりました。指標1、人権同和教育研修会の参加者数は評価が3。指標2、公民館の人権教育事業の参加者数は評価2と、わずかに昨年度を下回りました。しかし、指標3、外部講師による人権教育、同和教育に関する校内研修を実施した学校数は目標を大きく上回り、評価は4となりました。施策全体としては、各種研修会の実施により人権同和教育の充実が図られたものと考えています。

次の基本施策7、家庭教育の充実と子育て支援は、後期より学びの扉に加わった施策です。初めに、7－(1)家庭教育充実の支援です。施策評価は2.7となりました。指標1は目標に届かず2となりましたが、実施校が3校増えております。指標の2及び指標3は目標を達成し、3となりました。今後も市民の学習機会の充実に努めてまいります。

下の段、7－(2)子育て支援の充実です。こちらの説明の前に、1か所訂正をお願いしたいと思います。この表の右側の施策の取り組みの説明の部分の一点目のところでございます。新規事業の開催や事業の見直しにより参加者が漸増したという部分の「新規事業の開催や」の削除をお願いいたします。平成26年度については既存の事業の見直しにより事業を進めたところでございます。新しい事業がなかったことから、この部分の削除をお願いいたします。7－(2)の施策評価は2でございます。指標1及び指標3は目標をわずかに下回ったものの、前年度に比べ参加者数が増加しております。指標2、子育てフリースペース等の参加者は参加者数が再び減少傾向に転じました。平成27年度も引き続き親子遊びや子育てフリースペース事業を継続し、親の悩みを相談できる場や親同士の交流できる場の提供を進めてまいります。

続きまして8－(2)学び育つ各世代への支援です。学びの扉に該当する施策で、評価は2.0です。指標1、にいがた市民大学の受講

者数が昨年度、指標、定員に対する受講者の割合に変更させていた
だきました。平成 26 年度は 84.5 パーセントとなり、評価は 2 とな
ったところです。指標 2 公共図書館における児童書の貸し出し冊数
は児童数の減少や学校図書館の充実、一部の図書館の休館の影響に
より貸し出し冊数が減少し、評価は 2 となりました。しかし、公共
図書館での 12 歳以下の子ども一人当たりの貸し出し冊数は 5 年間で
2.5 パーセント増加しております。指標 3、公共図書館で実施する子
ども・親子対象事業の参加者数は 2 となっておりますが、昨年度と
比較して参加者数が 1,500 人増加するなど、着実に参加者数は増え
てきております。指標 4 は目標に届きませんでした。起業・経営
相談会やビジネス支援セミナーなどの開催により、過去最多となり
ました。

8-（3）地域における生涯学習活動への支援です。この施策は
後期から学びの扉に加わったものでございます。施策評価は 4 です。
指標 1、地域学関連事業の参加者数は昨年度よりさらに増え、7,000
人弱の参加者数となりました。指標 2 コミュニティとの連携でも、
67 のコミュニティ協議会が公民館との連携事業を実施しており、目
標を大きく上回っております。地域のつなぎ役となるコミュニティ
コーディネーターの育成講座も全区で実施いたしました。

下の段、10-（1）地域と共に歩む学校づくりの推進です。この
施策は学びの扉に該当するもので、教育ビジョンの中心的な施策で
す。施策評価は 3.7 です。地域と学校パートナーシップ事業では、市
立の全小中学校、中等教育学校、特別支援学校、計 172 校で実施さ
れ、地域教育コーディネーターの配置数も 274 人となっております。
指標 2、ふれあいスクールの実施校数は新たに 6 校で開設し、68 校
で事業を実施いたしました。それから指標 3 も新規校を含め 69 校で
実施し、累計で 106 校となっております。地域教育コーディネーター
が核となり、学校と地域コミュニティ協議会や自治会、公民館と
の連携が進み、子どもの成長や学びを地域で支える機運が高まりま
した。

13-（1）教育関係職員の研修プログラムの充実です。こちらも
学びの扉に該当する施策です。施策評価は 3.0 です。指標 1、指標 2
ともに目標を超えて 4 の評価です。指標 3、学社民融合研修の受講
者数は評価が 2 となっておりますが、これは研修会や講座のあり方
を見直し、研修の回数が減少したことがその理由となっております。
指標 2 に戻りますが、他の教師の模範となる優れた教師力を持つマ
イスター教員の養成を図るため、指導主事がマンツーマンで指導を
行った結果、1 年目受講者 12 名全員が終了し、内 7 名がマイスター
に認定されました。認定されたマイスターはセンター研修や校内研
修等で指導力を活用され、市全体の教師力向上に役立っております。

13- (2) 教職員への支援体制の充実です。後期から学びの扉に入った施策で、施策評価は 3.0 です。指標 1, 支援を要する教職員の人数は減少傾向を続けており 3 となりましたが、指標 2, 教職員の病気休暇・休職者の人数は 25 名増え、2 となりました。指標 3, 放課後に子どもと接する時間が 1 週間当たり 5 時間以上の教員の割合は全学校、園で管理主事訪問等の際に多忙化解消行動計画の実施状況の把握と指導を行った結果、昨年度とほぼ同等の割合となっております。平成 27 年度の予防的研修や教職員ヘルスケアシステムの実施、多忙化解消へ向けての取り組みの充実を図っております。

最後ですが、18 ページから 20 ページまでは、教育ビジョン推進委員からの主な質問・意見・要望とそれに対する教育委員会の対応についてまとめたものでございます。今後もこうした外部委員からの知見を生かしながら教育ビジョンを進めるうえで着実な取り組みを進めてまいります。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

○教育長

ただいまの説明にご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○伊藤委員

分からないので教えてほしいのですが、協議会の 13 ページの 2- (5) 非行等への対応で、右側に S S W, S S T の派遣によりということなのですが、用語の説明をお願いします。

○学校支援課長

スクールソーシャルワーカーです。

○織田委員

この施策評価について、根本的に、いつも疑問に思うのですが、4, 3, 2, 1 の評価ですよね。とてもよくなったら 4 なのだけれども、協議会 14 ページの 5 校種間・学校間連携のところですが、指標目標が 100 で進捗も 100 なのに、施策評価としては 3 なのです。これはもっと上を目指しているという意味なのでしょうか。

それからその隣のページ、少し厳しいことを言うようで申し訳ないのですが、7- (2) 子育て支援の充実のところでは、ほかの表でも全部共通しているのですけれども、指標目標はどんどん上げることになっているようですね。前向きな姿勢の表れで、目標をどんどん上げているけれども、進捗状況としては、例えば、指標 1 について 5,737 から 5,781 に伸びているし、指標 3 も 261 から 263 に伸びているのに 2 という非常に厳しめの評価。これは目標値がどんどん、実態にそぐわないくらいに上がってしまっているのではないかと懸念してしまいます。特に、保育者研修会の参加者数というのはどんどん増えればいいかもしれないけれども、実際、それほど研修会に行きたい人のニーズというか、もともとの個数があったのこの目標値なのかと思ってしまうと、きっと現場の方が頑張っているのに、成果として数が出てこないだけで 2 の評価というのは、かわいそうかなと思ったりします。すみません、目標値の読み方が分からないので教えてください。

○教育総務課長 まず、一つ目の1から4までの意味合いですが、協議会の11ページの右上に記載させていただいています。教育ビジョン後期実施計画スタート時に、その計画期間の5年間、先を見越してどこまでそれぞれの事業を達成するのかという目標を立てました。そして、年度ごとの達成水準を年度ごとの目標値として設定したところです。その設定した目標値を目標どおり達成した場合は3、それを上回るくらいの成果を上げれば4といったような意味合いの評価です。それで、今、委員から言われたように協議会の14ページでは中学校区の割合100パーセントになればそれ以上増えようがない、3以上があり得ない指標設定となっているものです。それぞれの指標の意味合いでどんどん増えていくようなものもありますし、全市で取り組む、100が最終目標ですといった性格のものもございます。ですので、指標によっては3が最高のものがどうしても出てくるということです。この指標の設定のしかた、この事業を評価するうえで指標設定がいいのかどうかといったところに戻ってくるかと思うのですが、小中一貫連携というのは、すべての中学校区で実施したいということから、それが100パーセントという指標の設定のしかたということで、どうしても評価するうえでこのものしかできなかったというところがあったり、そういったもので事業ごとに評価の指標の設定が出てきたということなのです。

○織田委員 分かりました。今のご説明は言葉としては分かるのですけれども、ではその指標、最高評価の4に値する3なのに、3しかつきようがないのですね。どうしても数字で統計を表すと数字に囚われて見てしまうので、意味のある数字にしておいたほうが良いのではないかと思います。

○教育総務課長 平成27年度からの第3期実施計画がスタートしておりますが、ここでも数値評価を5年間やってまいります。ですので、その中で評価の幅を持たせるとか、そういったところで工夫をさせていただいております。

○織田委員 目標設定について、もう一度精査したうえでお願いしたいと思います。たとえば図書館が休館になって利用者が減ったのに、単なる利用者減という評価になってしまうのでは、正しい評価ではないと思います。そのような細かなこともきちんと読み込んだうえでの目標設定を、現場で頑張っていらっしゃる方のためにもぜひお願いしたいと思いました。

○教育総務課長 指標についても、説明の中でも何箇所か説明させていただきましたが、その評価をするに当たってそぐわないという指標も年度途中とか計画の期間中でも変えさせていただいています。市民大学のところも変えたということですが、それと同じように、目標値も事業を開始した後、社会的なそういったものもございます。そうい

ったところも考慮して、目標値についても随時見直していくというやり方でいきたいと思います。ただ、安易に目標を下げてその事業を推進するうえでの努力を放棄するような目標設定をするというのはよくないとは思いますが、社会的配慮もしながら、合理的な目標値の設定、変更もやっていくべきものだと思っておりますので、第3期はそういった視点で適切な進行管理をできるようにしていきたいと思います。

○織田委員 お願いします。

○教育長 ほかにございますか。よろしいでしょうか。

第6 協議会閉会

○教育長 午後5時20分 協議会を終了する。

傍聴人・報道はご退席ください。事務局も両教育次長，教育総務課長，教職員課長，教育総務課事務局を除き全員ご退席ください。

第7 定例会再開

(非公開案件) (付議事件
議案第8号「市立小学校長の人事について」
審議し，可決する。)

第8 閉会宣言

○教育長 午後5時30分，閉会を宣言する。

以上，会議のてん末を承認し，署名する。

署名委員

署名委員